

## セロリ

# 寒冷紗で高温避ける——永田 茂穂



セリ科の1, 2年生草本で、セルリーとも呼ばれます。原産地は広く、ヨーロッパからアジア西部、インドなどです。日本での栽培が増えたのは昭和30年代からです。

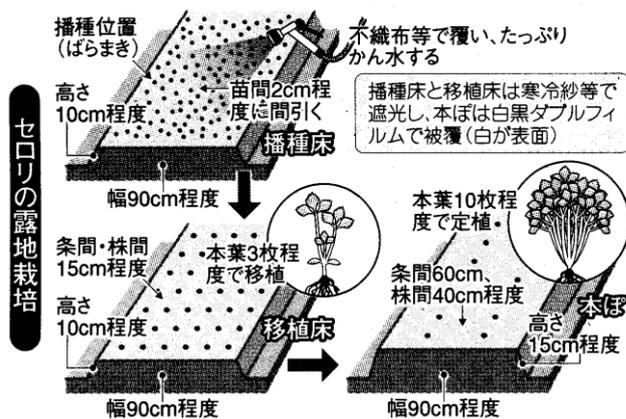
さわやかな歯ごたえと薬臭に似た独特の香りが特徴です。古代ギリシャ・ローマでは医薬用として利用され、強壯、利尿、整腸の効果があるとされています。種子や葉からとれる精油成分は食品や化粧品の香料に使用されています。

ビタミンB1・B2, カロテン, カリウムなどを含み、栄養的には茎より葉の方が優れています。サラダやスープのほか、煮物や油炒め、漬物などに利用されます。

生育適温は20度前後で、高温には弱いです。夏まき冬どりの露地栽培を紹介します。

**播種期は6月**です。種子は本ば1 $\frac{1}{2}$ に2 $\frac{1}{2}$ 必要です。肥えた排水の良いほ場を準備します。

播種や定植の1週間前までに、1平方メートル当たり堆肥2 $\frac{1}{2}$ kg, 苦土石灰120 $\frac{1}{2}$ g, 化学肥料は播種床10 $\frac{1}{2}$ g, 移植床50 $\frac{1}{2}$ g, 本ば150 $\frac{1}{2}$ g (3要素15%)程度を施し、耕うんします。播種床、移植床は幅90 $\frac{1}{2}$ cm, 高さ10 $\frac{1}{2}$ cm程度にします。



移植床は幅90 $\frac{1}{2}$ cm, 高さ10 $\frac{1}{2}$ cm程度にします。

1平方メートル当たり2 $\frac{1}{2}$ kgの種子をばらまき、覆土はせずに不織布などで覆い、たっぷりかん水します。高温にならないように寒冷紗等で遮光します。発芽後、苗間隔が2 $\frac{1}{2}$ cm程度になるよう不良苗などを間引きます。

本葉3枚で移植します。株間・条間15 $\frac{1}{2}$ cm程度の6条植えとし、移植後かん水します。約30日後に化学肥料30 $\frac{1}{2}$ gを条間に

追肥します。高温期の育苗になるので黒寒冷紗等で遮光します。

**9月, 本葉10枚程度で定植**します。うね幅120 $\frac{1}{2}$ cm, 床幅90 $\frac{1}{2}$ cm, 高さ15 $\frac{1}{2}$ cm程度の畦を作ります。地温上昇抑制や雑草対策のために白黒ダブルフィルムで被覆します。株間40 $\frac{1}{2}$ cm, 条間60 $\frac{1}{2}$ cm程度の2条植えで定植し、かん水します。追肥はおおよそ30日間隔で化学肥料60 $\frac{1}{2}$ gをうね間に施用します。また、株張りを良くするために、定植後35日程度で、脇芽をとります。

定植後90日程度から収穫です。葉を1枚ずつかく収穫法もあります。収穫が遅れるとす入りになります。なお、降霜期にはべたがけ資材等を被覆します。

(鹿児島県農業開発総合センター園芸作物部長)

平成22年6月10日(木) / 南日本新聞